

教職の魅力再発見

樋渡美千代（酒田市直一校小学校校長）

1. はじめに

教師という仕事を選択しこれまでずっと続けてきたことが正解だったのかどうか、私は今でもよくわからない。ただ子どもたちと一緒にいることが楽しくて、子どもたちの成長がうれしくて、必死に駆け抜けてきた。ふと気がついたら、今も教師を続けているというのが現状である。今回このプロジェクトに携わり、教師という職業について改めて見つめ直す機会をいただき、教職の魅力を再発見するに至った。

2. 教職の魅力創造プロジェクトについて思うこと

①若者の声に耳を傾ける【プラットフォーム会議】

本会議には、大学関係者に加え、高校生や大学生、大学院生が委員として参加している。第1回会議で、最初に挙手し意見したのが高校生だったことに正直度肝を抜かれた。しかもその意見は大変建設的なものであった。どうすれば若者の教職への興味関心を高めることができるのかという課題解決のためのプロジェクトであるから、若者の声を聴くのは至極当然のことのように思える。しかし、これまで会議という場に高校生や大学生、大学院生の姿を見たことがあっただろうか。確かに当事者こそが、生の声として、この事業への要望やアイデアをもっているはずである。このような声に耳を傾けながらこのプロジェクトを進めている大学の姿勢に感銘を受けた。またその期待に応えようとしている生徒、学生、院生の姿にも毎回心を打たれている。この会議自体が非常に魅力的である。

②やわらかな感性のうちに【小学校教員体験セミナー】

本セミナーについての説明を伺い、高校生によるプログラミング教育のことを思い出した。地域の高校生が本校を訪問し、小学生にPCを活用してロボット操作の指導を行った。小学生は喜々として活動に取り組んでいた一方で、高校生は「小学生がしっかり自分の話を聞いてくれてうれしかった。自分が小学生の時にはこんなに理解できなかったのに今の小学生はすごい」と興奮気味に話していたことを思い出す。私は子どもたちの興味関心を引き出し、わからなさに丁寧寄り添っていた高校生の姿に感動した。可能ならこの高校生たちには是非教師になってほしいと思ったくらいである。彼らが専門的に工学を学び、その道に進むことはわかっているのだが、今回の経験で、教師も悪くないと感じた高校生もいたのではないかと。感性がやわらかいうちに、あるいは、まだ進路について迷っている時期にこのような経験をすることで、教職に魅力を感じる生徒もいるのではないかと。そう考えると、高校生にとって本セミナーから得るものは大きいと感じている。

③誰もが悩み苦しみながら【聞き書きプロジェクト】

教え子に「教師は素晴らしい仕事だから是非お勧めしたい」と言える教師はどのくらいいるだろう。むしろ悩んだり苦しんだりした経験の方が圧倒的に多く、薦めることに躊躇する教師もいるのではないかと。私もこれまでを振り返っても積極的に薦めたことはないような気がする。とは言え、教師は魅力的な仕事である。今回実際に院生のインタビューを受け、自分の拙い語り的一部分をインタビューアの視点から切り取り、一人称で語り直していただくことで、恥ずかしながら自分の教師人生を客観的に振り返ることができた。院生にとっても、実習等で悩み苦しんだ経験や、教師になるにあたり少なからず抱えている不安は、決して自分だけのものではないと感じる機会になったのではないだろうか。決して人に語るほどのものでもない自分の経験が、学生や院生がこれからの自分の人生を描いていく上で少しでも力になるのであればうれしい。今回のプロジェクトのおかげで、私は今更だが、教師は魅力的な仕事だと人に語れるようになった気がしている。

④もやもやするのにやめられない【学びのフォーラム】

第1回学びのフォーラムで「学びとは」という問いに対し「蜘蛛の巣のようなもの」と回答した高校生がいた。自分の中にどんどん糸を張り巡らせて大きくし、必要に応じて必要な場所に移動しその知識を使うというその説明に、江間教授が「鳥肌が立った」とつぶやかれたことを覚えている。確かに学びとは、蜘蛛の巣を張り巡らせるようなものである。しかもその巣は決して完成することはなく、この巣づくりは生きている限り永遠に続く。このときの高校生は、現在山形大学で学び、この春から教員になるそうだ。このフォーラムは、簡単には答えが見つからない問いについて、難解な資料を読み解きながら、高校生、大学生、大学院生に現職の教師が加わり、異年齢の仲間とともに自分なりに答えを創る。学ぶとは、考えるとは、わかるとはどういうことなのか。あまりの難しさに頭がもやもやしてくるのだが、参加者はその不思議な魅力が忘れられず再びこのフォーラムに戻ってくる。この場は、参加者にとって学びの原点を取り戻す貴重な場となっているのではないかと。私にとってはそういう場である。

3. おわりに

最後に、本プロジェクトに携わり、教職を目指す人が山形大学で学ぶ意義を私なりに考えてみた。第一に、様々な視点から教職の魅力に出会うことができる。第二に、魅力だけではなく、教職における困難やそれを乗り越えた実体験にも出会うことができる。第三に、大学が、学生や院生の声にも耳を傾けながら授業を創造し、未来の教師を育ててくれる。

私の勤務校には、卒業を間近に控えた11名の6年生がいる。そのうちの2名が、将来教師になりたいという夢をもっていることを最近知った。教師志望の若者が減少していると言われるが、小学校に勤務していて、教師になりたいと話す小学生に出会うことは、最近ほとんどなくなったように感じている。だからこそ、この2名の夢を大切に育てていきたいものである。6年後には山形大学に進学し、将来は次世代の山形の子どもたちの教育に携わって欲ればという願いをもちつつ、卒業まで残された彼らとの時間を大切に過ごしていきたいと考えている。